三国祭の振興

「三国祭」が抱える課題

- 北陸三大祭に数えられる「三国祭」は毎年5月19日～21日に開催されていますが、近年は以下のような課題を抱えています。
  - 基礎的なコミュニティ単位である「区」の世帯数・人口減少と高齢化により、神輿・山車の巡行を担う「区青年部」の成り手が減少している。区によっては、お囃子を担当する児童も不足する状況が続き、将来の担い手不足が確実に予想される。
  - 従来、ご祝儀や寄付、積立金等により各区が様々な実行経費を賄っていたが、その財政状況は年々厳しくなっている。また、地元組織が企業協賛を募ることもあるが、属人的なネットワークによるものであり、今後の運営の安定性が心配される。

（地元組織へのヒアリング（2021年2月10日実施）による）

出典：三国祭保存振興会ホームページ

三国祭の振興

三国祭の伝統・技術と想いを伝える場所の整備

- 通年で制作する人形師の拠点をオープンするなど、技術と祭りの思いを伝承する拠点を作ることを検討し、必要な支援を行っていきます。
- 具体的な場所としては、三国エリア内の空き家を利用したり、各区内に存在する既存山車蔵の積極的な通年開放などが想定されます。

ソフト面での施策

- 若手部会の設置を検討するなど、積極的に地元の組織強化を支援していく仕組みを構築していきます。
- AR/VR、アプリ、動画等、祭り実施日以外で観光客が祭りの迫力を感じられる仕組みを作ることも重要です。
- 三国祭事前期間の練習稽古（お囃子・踊り）を積極的に公開・告知し、観光客が見て楽しめるコンテンツとすることも支援します。

ハード面での施策

- 山車を一箇所に集める広場を整備したり、山車を見下ろす場所の整備（町屋内部・路上）を行うための方策を検討し実施します。
- 将来的には、街並み整備と合わせて巡行ルート中の電線の地中化を行い、かつての山車のサイズへの復元を行うことも想定されます。

ナイトタイムエコノミーの推進

東尋坊の夜の拠点化

- ほぼ日没とともに営業を終了している東尋坊商店街の営業時間を夜間まで延長することで、夕方以降に来訪する観光客が長く滞在できます。

エリア内の夜間営業飲食店等の活性化

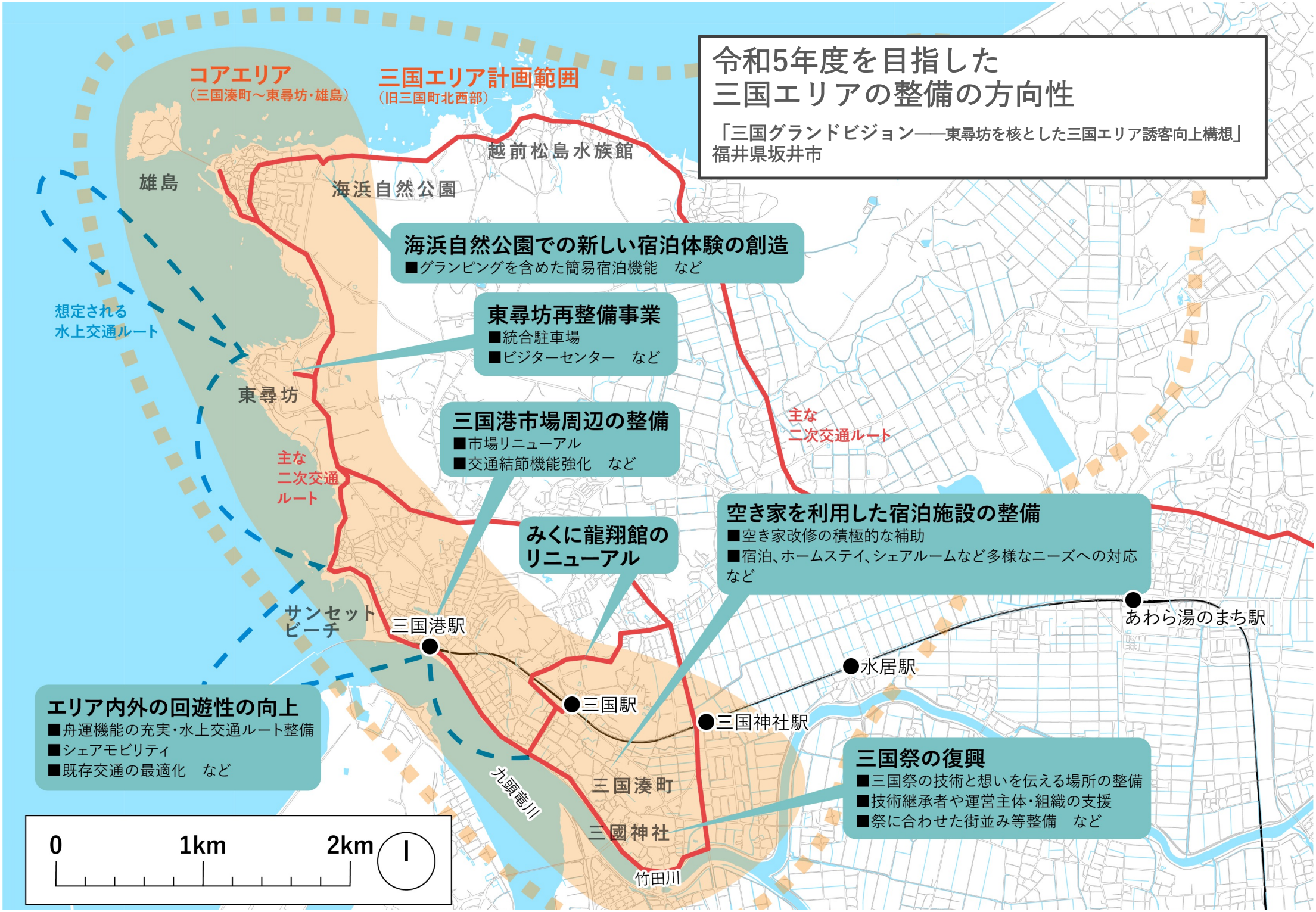
- 三国エリア内で夜間時間帯に営業する飲食店等の店舗数を増やし、活性化するための支援を行います。

夜間時間帯の文化財の活用

- 文化財等（例：みくに龍翔館、旧森田銀行本店）の夜間時間帯の開放を進め、夕方以降に来訪する観光客のアクティビティを創出する仕組みを作ります。

夜間時間帯の回遊性の向上

- 夜間時間帯の公共交通機関（路線バス・鉄道）、運転代行やタクシーなどの充実を図り、夜間に安心して「マイカーなし」または「飲酒あり」で外出できる地域にするための施策を実行します。

令和5年度を目指した
三国エリアの整備の方向性

「三国グランドビジョン――東尋坊を核とした三国エリア誘客向上構想」
福井県坂井市